

1-1-4a現代

ここでは、「現代」についてお話をします。

「現代」が「近代」の延長上にある以上、「現代」は「近代」のいいところも悪いところももっています。

まず、《個》と《世界》について考えましょう。

①アイデンティティの危機

家族や仲間も大切だけど、、、

でも、一番大事なのは自分自身。

というのが、「**個人**」という意識です。

近代の《豊かさ》のなかで生まれました。

より豊かで便利になった現代では、そうした「個」の意識が自然とより前に出るようになります。

携帯電話がなかった時代、人とどこかで待ち合わせするのに時間厳守は原則でした。

ドタキャンなどもつてのほかです。

でも、今や、多少の遅れは気になりません。

ドタキャンはさすがに響きますが、でも、できないわけではありません。

だって、簡単に連絡取れるのですから。

ここでは、友だちよりも自分の都合が優先しているのですが、それすらあまり意識されません。

不幸なことに、、、

私たちは、《自分》を実感するために、たしかに他者を必要とします。

だから、「個」という意識が肥大化して、他者との関わりが希薄になると、《自分》を見失います。

そうした状況を「**アイデンティティの危機**」と呼びます。

が、これはそれほど特別なものではありません。

自分がやりたいこと、行きたい大学が明確な人はいいいでしょう。

しかし、みんながみんな、そうではないはずですよ。

では、どうやって自分の将来の方向性を決めますか。

周りの意見を取りあえず聞いてみて、、、

でも、なかなかこれだというものがないと、、、

時間切れ的に、学校の先生から勧められたところを第一志望にしてみたけど、、、

なんて人はけっこういるでしょう。

この状況、ある意味で《自分》を見失っていませんか。

自分の将来のことだから、自分で決めなければならないと私たちは考えてしまいます。

周りの意見はあくまでも参考で、、、

と思うからこそ、決めきれない。

「アイデンティティの危機」などと大げさに言われますが、こういうグズグズな状況は、「自分で」と思い込んでいる現代人にはよくあることではないでしょうか。

「個人」として、《自分》を大切にしようとするあまり、他者とのかかわりが希薄になり、《自分》を見失う、、、

現代人は、根本的な矛盾を抱え込んでいるようです。

②マイノリティとしての私

「#Me Too」運動を知っていますか？

17年、アメリカで「私も性的虐待の被害者だ」という声を多くの女性が上げました。

19年には、日本でも、職場における性差別を告発するものとして「#KuToo」運動が起こりました。

こうした動きを他人事（ひとごと）だと思うのはまちがいです。

たとえば、周りのみんなが面白いと言っているけど、そのアニメ、全然面白くないよな、と自分一人だけが思っていること、ないですか。

それを口に出すかどうかは別として、その気持ち自体は大事にしたいですね。

だって、それこそが《自分らしさ》ですもの。

ということは、私たちは、何らかの意味で、必ず**マイノリティ**だし、マイノリティであるべきだ、ということです。

どんなに「個人」という意識が肥大化しようが、誰かの支えなしで生きていくことはできません。

周りに合わせることは大切です。

でも、やっぱり、《自分》を大切にしたい。

と思うなら、他の人の《自分》を大切にしなければ、自分の《自分》も大切にしてもらえないはずですよ。

民主主義は、多数決原理を採用しています。

それは、**マジョリティ**が「正しい」からではありません。

さまざまな人たちがさまざまな意見をもち、そのどれが「正しい」か一義的に決められないので、しかたなしに多数決で決めるのです。

民主主義は、自分と違う意見の存在を前提としています。

が、ネットには、それを「偏向」とか「反日」といって批判する人がいます。

そう批判することもまた自由ではありますが、もしそれが自分をマジョリティだと思い込んで、マイノリティを抹殺しようとしているのなら、少なくとも民主的とはいえません。

社会的な少数者＝マイノリティが声を上げられる社会こそ、健全な社会といえるでしょう。

その声にマジョリティが耳を傾ける社会こそ、健全な社会といえるでしょう。

ジェンダーギャップ指数って、知っていますか？

世界経済フォーラムが毎年発表している男女格差の国別ランキングです。

23年、日本は過去最低の146カ国中125位でした。

男女格差だけではありません。

日本がかなり差別的な社会であるという自覚、ありますか。

もしないなら、無自覚に差別「する」側に加担していることになります。

ということは、君自身もまた差別「される」可能性がある覚悟、もっていますよね？

③世界の一員

近代は、豊かになっていくなかで、「家」や「村」よりも大きな政治的、経済的な社会単位が必要になってきました。それが「**国家**」です。

が、より《豊かさ》が進んだ現代は、「国家」よりもさらに大きな政治的、経済的な単位が必要となりつつあります。それが「世界」です。

グローバリゼーションによって、世界は一つになろうとしています。

身近にあるものを見てみましょう。

中国産、とか、ベトナム製、とか、、、

今私が使っているパソコンやタブレットは、アメリカの企業が設計したものを、日本をはじめとするさまざまな国の部品を使って、最終的に中国で組み立てられています。

スマホでやっているゲームは、運営会社やサーバーが海外にあるだけでなく、対戦している相手も日本にいるとはかぎりません。

人やものがやすやすと「国家」を越えてくるのです。

インターネットも、世界を一つにしています。

まだ言語の壁がありますが、それも近い将来、技術の進歩で解消するでしょう。

SNSなどのソーシャルメディアは、国境を越え、いや、空間的な意味だけでなく、年齢や性別、社会的な立場すら越えて、《世界》をつなげていきます。

もちろん、そうしたメディアが、逆に社会の分断を促進しているという側面も指摘されています。

が、もはや、こうした世界の一体化は避けられない流れでしょう。

まだまだ国民国家という近代的な枠組みは健在です。

だから、私たちは、どこかの国の「国民」です。

が、そうであるとともに、「世界」の一員でもあります。

しかも、それを私たち自身が実感しています。

現代は、世界のどこかで起こっている戦争も、自然環境問題も、他人事ではなく、自分事として向かい合っていかなければならなくなった時代だといえるでしょう。

現代人は、《個》という極小と《世界》という極大を生きる存在となったのです。